

算命学中庸

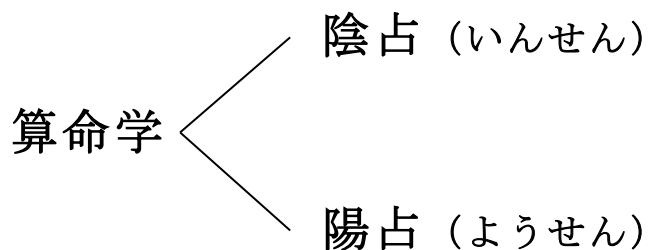
【初年】 27回目

27回目の授業はこのページからです。

授業科目 【流入論・発揮論】

【初年】 27回目 【流入論・発揮論】 01

算命学の「占い」は、陰と陽に分かれています。



26回目【五行諸類考】は生年月日から宿命をだして、土性が多いとガンになりやすい、火性が多いと心臓に

欠点がでやすいと学びました。

どこを見て〔土性が多いとガンになりやすい〕と、判断するのかといえば「陰占の宿命」です。

「年干支」「月干支」「日干支」は陰占の宿命です。

陰占の宿命を「^{いんせん}陰占」と呼称こしょうします。

「陰占」を五行(木火土金水)に換えて、土性が多いとか、火性が多いとか、水性が多いとかを見たわけです。

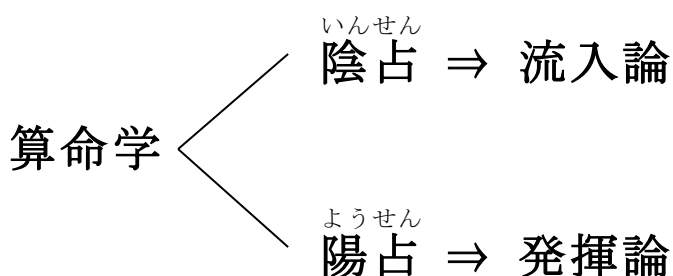
参考：呼称（呼び名）

算命学は「^{ようせん}陽占」「^{いんせん}陰占」という2つの占いがあります。

「^{いんせん}陰占」はまだ具体的にやっていませんが、これから話しを進めていきます。

「陰占」について論じるのが^{りゅうにゅうろん}流入論です。

「陽占」について論じるのが^{はつきろん}発揮論です。



【流入論・発揮論】の授業では「陰占」と「陽占」の観方の違いを知っていただきたいのです。

「陰占は流入」^{いんせん}「陽占は発揮」^{ようせん}ですが、どのような違いがあるのか、どのように観るのかを理解してください。

宇宙空間には【気^き】が存在し、五行（木火土金水）を生ずる【気】も流動波及しています。

それゆえに、万物が生まれて、人間も生まれ、動植物も育つことができるという考え方をしています。

その【気】を「天氣^{てんき}（宇宙の気）」と「地氣^{ちき}（地球の気）」の2つに分けています。

参考：捉える（象徴的な事柄を掌握する）

宿命（1）天氣／地氣

			木氣	火氣	土氣	金氣	水氣
天氣	十干	陽干	甲	丙	戊	庚	壬
		陰干	乙	丁	己	辛	癸
地氣	十二支	陽支	寅	午	辰・戌	申	子
		陰支	卯	巳	丑・未	酉	亥

「^{てんき}天気」の質から生じる【気】は五種類あります。

宿命（1）天気／地気の表に記載されているように……

木^{もつき}気・火^{かき}気・土^{どき}気・金^{きんき}気・水^{すいき}気の五つです。

「^{ちき}地気（地球の気）」は「^{てんき}天気（宇宙の気）」の影響を受けます。

木気・火気・土気・金気・水気の「^{じっかん}天気」を十干であらわします。

木気・火気・土気・金気・水気の「^{じゅうにし}地気」を（十二支）であらわします。

〔たとえば〕2023年（令和5）の干支は「^{きう}癸卯」ですから
「^{きすい}癸水の^{うぼく}卯木^{とし}」の年です。

人間の眼で見ることにはできませんが、2023年という
1年間は「^{きすい}癸水の^{うぼく}卯木」という「^{てんき}天気（宇宙の気）」が
宇宙空間を流動し、地球全体を取り巻いて自然界に
^{はきゅう}波及している年と考えています。

参考：波及（だんだん影響がおよぶこと）

参考：自然界（人間をも含んだ、天地万物の存在する範囲）

「天気」「地気」の宇宙空間を地球は自転しています。

いま……算命学の講義を〔読んでいる〕〔聴いている〕

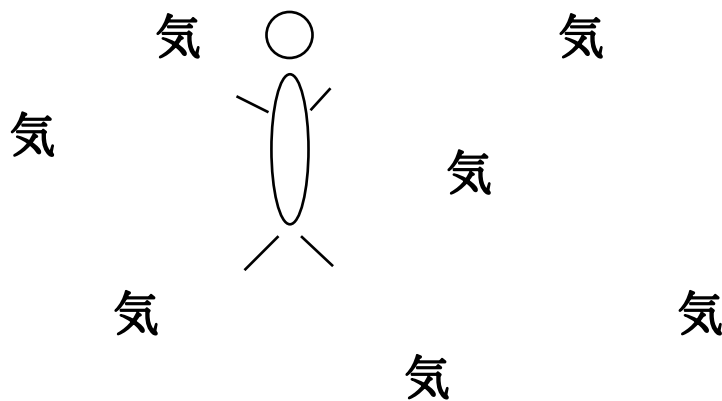
私たちの肉体に触れ、体内を透過しています。

その感覚もないし、掴むこともできませんが、人間は「癸卯」の【氣】を吸って、吐いて呼吸します。

地球上で生活している人間は「癸卯」という【氣】の影響を受けます。

参考：透過（光や粒子線が物質の内部を通りぬけること）

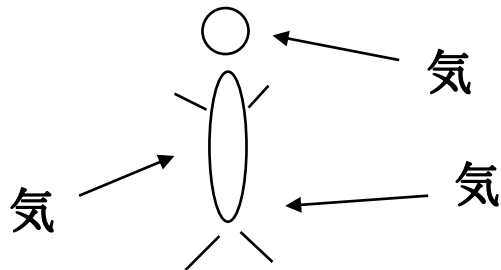
☞ その姿を描いてみますと…… 宿命（2）【氣】



2024年（令和6）は「甲辰 こうぼくのたつど」という【氣】が宇宙空間を流動します。

2024年は「甲辰」の影響を受けて、人間は生きて行くこととなります。

宿命（3）【氣】



私たちは空気を吸わないと死んじゃいますから……
誰でも空気を吸って生きています。

〔空気はもともと地球上に存在している気体の集合体だそうです〕

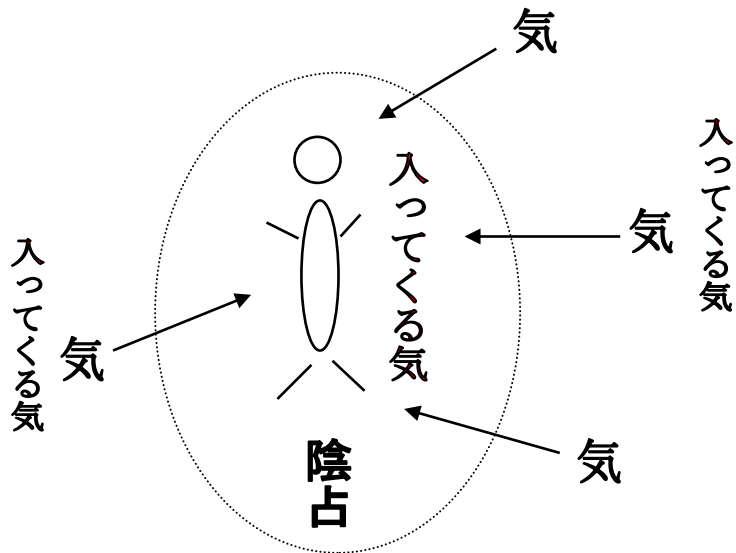
空気を吸い込んで吐く呼吸は、自然界の【氣】を体内に取り入れていると考えています。

呼吸だけが【氣】の取り入れ方ではありません。

水も飲みますし、食物を摂取しますし、陽光を浴びますから、宇宙に存在するさまざまな【氣】を取り入れているのです。宇宙線は肉体を透過します。

それらの【氣】を記号で表現したのが「陰占」です。

宿命（4）入ってくる【気】



〔たとえば〕 生年月日 ⇒ 2019年（令和元年）5月1日の人物の「陰占」を書きました。

	戊	戊	己
辰	戊	辰	亥
巳	辛	乙	甲
	丁	癸	
	戊	戊	壬

宿命（5）2019-5-1 生まれ

己亥^{どし}年（きどのいどし）
 戊辰^{づき}月（ぼどのたつづき）
 戊戌^び日（ぼどのいぬび）

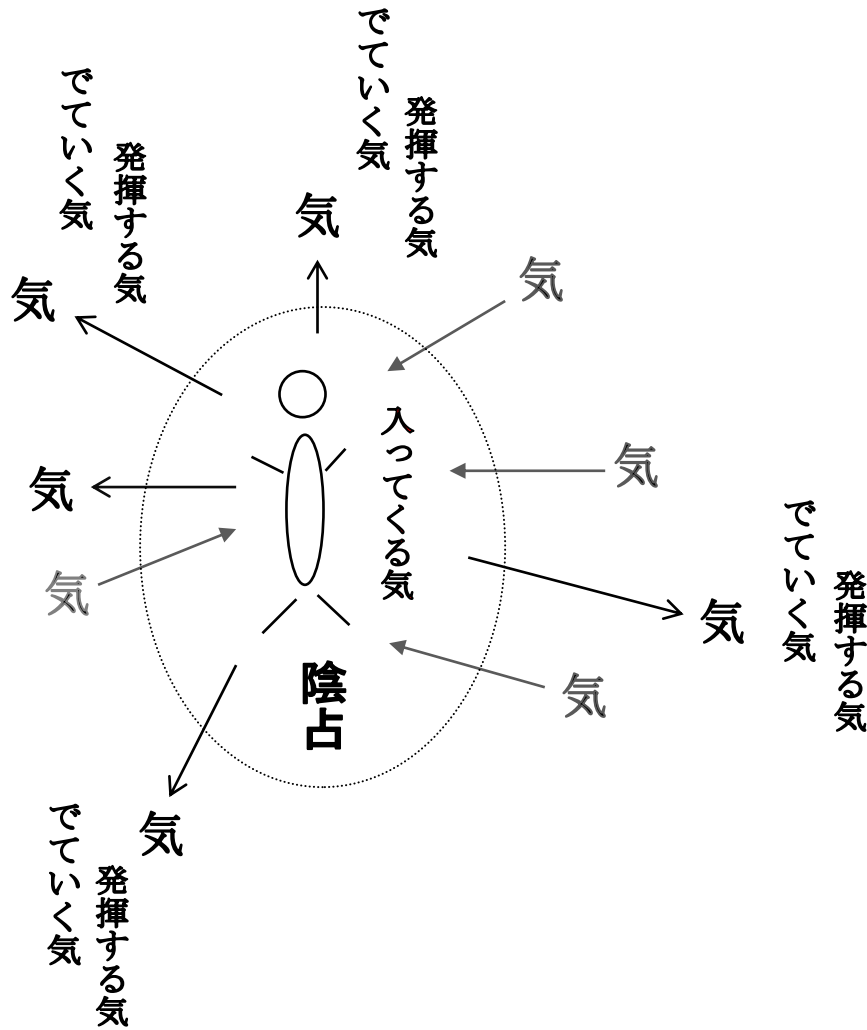
⇒ 2019年（令和元年）の年干支は「己亥」です。
つまり「己土の亥水」の年ですから、2019年に生まれた赤ちゃんに「己土の亥水」の【気】が入ります。
5月1日に生まれですから、月干支「戊辰」の【気】が入ります。日干支「戊戌」の【気】が入ります。
5月1日という日に……自然界の一員となりました。

- ❖ 2019年（令和元年）「己亥」という年の【気】は、その子のなかに入ります。
- ❖ 5月の「戊辰」という月の【気】もその子のなかに入ります。
- ❖ 1日の「戊戌」という日の【気】もその子供のなかに入ります。

2019年（令和元年）5月1日に生れた子供にどのような【気】が備わったのか……それを記号で表したのが「陰占の宿命」です。

☞ そうしますと、入って来たからには、出て行くことになるはずです。

宿命（6） 出て発揮する【気】



【気】はその赤ちゃんに入ってくるけど、入りっぱなしということはないのです。成長にともない姿を変えて出ていきます。必ずなにかしらの^{すがたかたち}姿形で【気】を発揮します。その【気】を **でていく気** **発揮する気** と考えていただければよろしいのです。

〔たとえば〕食べ物も、ご飯を食べたり、肉を食べたり、魚を食べたり、野菜を食べたりして、毎日……食物を自分の体内に摂り入れますけど、食物を摂取したら、摂り入れっぱなしではなくて……食物を体内で消化・分解して、エネルギーとして発揮したり、血や肉・骨に換^かえて発揮します。

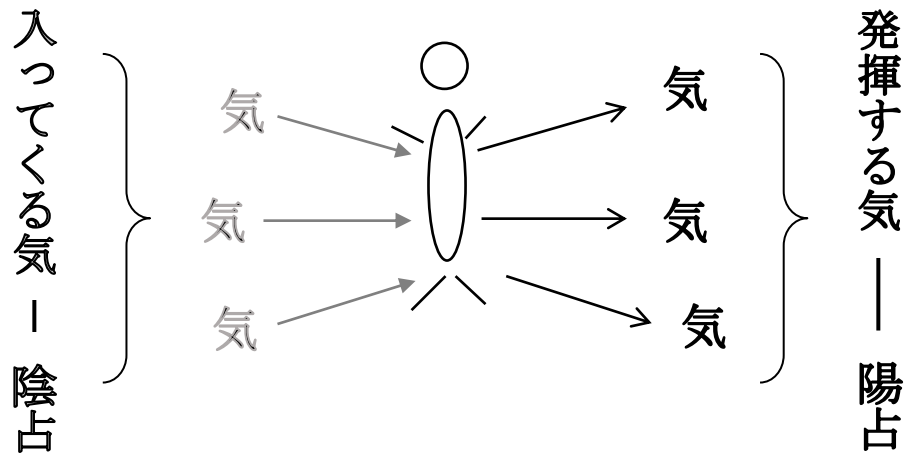
私たちは摂取した栄養素をさまざまに活用しています。

古き時代の賢人は【気】もそれとおなじではないのかと考えたのです。

宇宙を絶え間なく流動する【気】の影響を受けたら、それを『自分なりの気』として外へ向け、なにかしらの形で発揮しています。

発揮するほうの【気】を、記号で表したのが「陽占^{ようせん}」です。

宿命（7）流入と発揮



【自分に流入して来る気】と【自分が外へ放出する気】はおなじ【気】の姿ではないはずだ……と考えました。

ご飯を食べて、その栄養素を行動のエネルギーとして発揮しますし、^{からだ}体を構成している血や肉に替えて発揮しています。

それとおなじで、入ってくる気を自分のなかに取り入れたら、自分なりの独自の気として発揮するときは、流入してきた気とは異なる姿の「^{こと}人氣じんき」として、放出・発揮していると考えたのです。

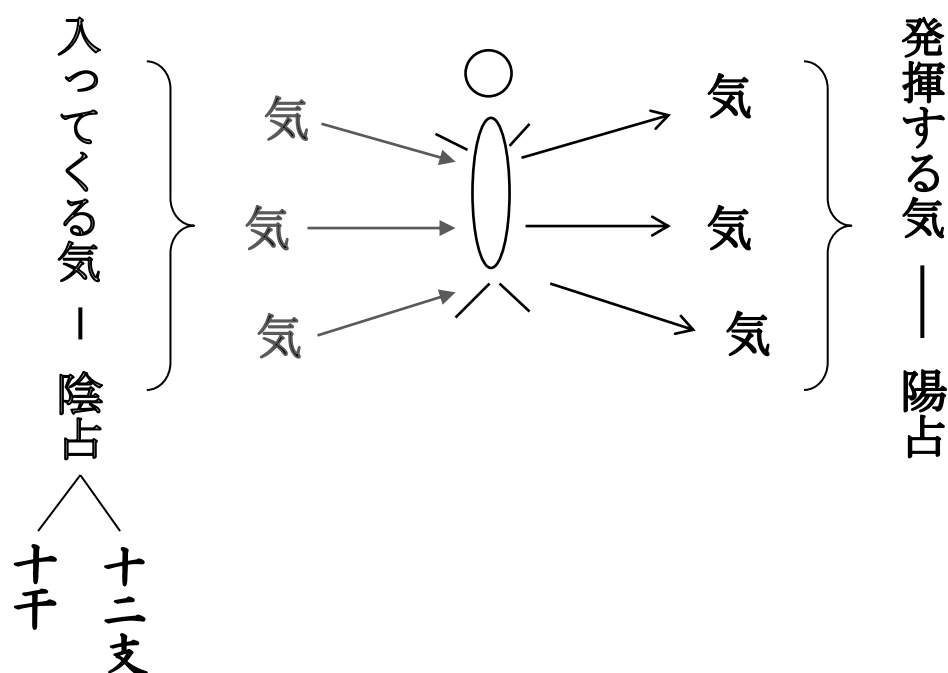
呼吸も……〈吸う息〉と〈吐く息〉では、息の成分が違っているはずですが。息を吸って必要なものを取り入れて、不必要なものを吐き出しています。放出するときは、違う成分になっています。

それゆえに……その一連の流れを記号で表現する場合には、陰占において「十干」と（十二支）という記号で表します。

参照⇒【初年】 15回目【宿命の出し方】生年月日から宿命をだしました。

十干と十二支で「年干支」「月干支」「日干支」の陰占宿命は成り立ちます。

宿命（8）流入と発揮



淮南子^{えなんじ} (中国の哲学書) 中国前漢^{こうそりゅうほう}の高祖劉邦^{りゅうあん}の孫で劉安 (漢の学者) が編著した。劉安は武帝に尊重されたが、謀反の罪に問われ自殺。

参考：高祖 (ある王朝をはじめた最初の天子＝創業の天子)

無限に広がりながらどこにあるかもわからないものを「宇」といい、時の長短があれども始まりも終わりもないものを「宙」という。

「宇」は天・空を意味し、「宙」は地を意味していると考えればよいのでしょう。

⇒ 宇宙には眼に見えないさまざまな【気】が存在しています。五行 (木火土金水) を生ずる【気】は宇宙空間を流動波及するゆえに、万物が生まれて、人間も生まれ、動植物も育つことができます。算命学はそういう捉え方をしています。その【気】を「天気 (宇宙の気)」と「地気 (地球の気)」の2つに分けています。このように 03 ページに書きました。

⇒ 算命学に「天気」と「地気」という言葉があります。

宇宙空間に存在する気を「天気^{てんき}」といいます。

地球には地球独自の気が存在し「地気^{ちき}」といいます。

大きく分けて「天気」と「地気」の二種類あるのです。

「人間は天と地の狭間^{はざま}で生きている。天の気も人間に

作用するが、地の気も人間に作用するはずである」
この2つの気が人間に流入して、影響を与えている。
と考えたのです。

人間がその作用を受けたとき、2つの気は変化して、
新たな「人間の気」として生じます。

それを「^{じんき}人氣」といいます。

「天氣」を記号で表したものが「十干」です。

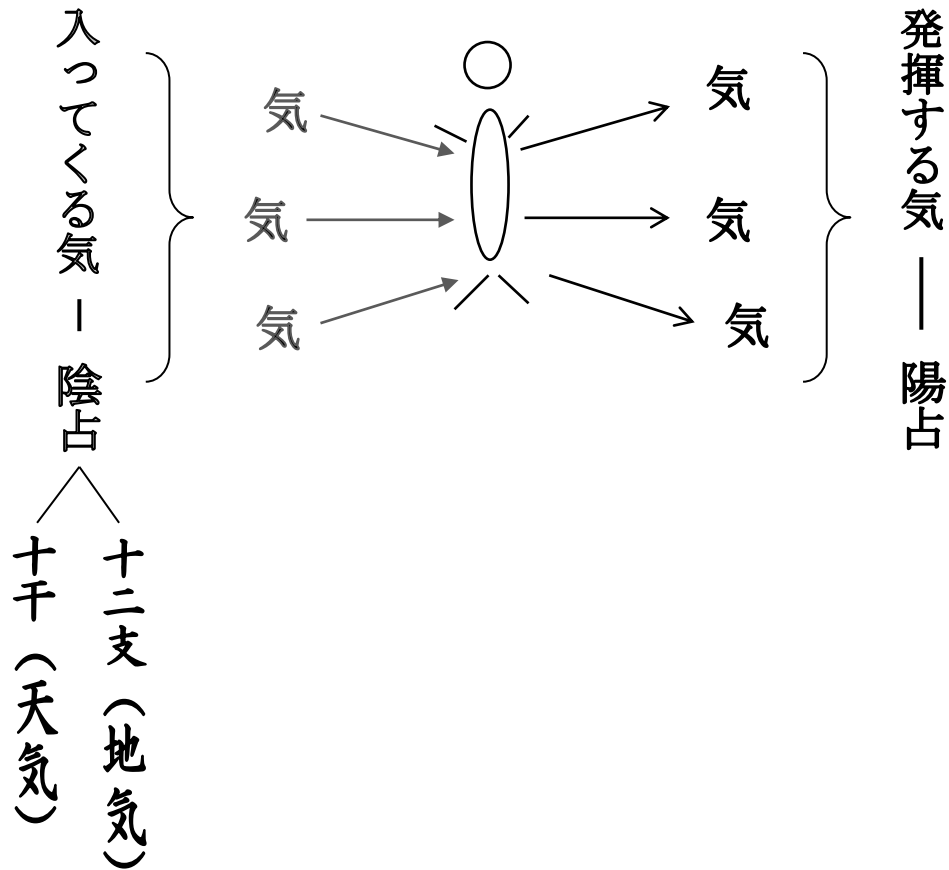
「地氣」を記号で表したものが（十二支）です。

宿命（1）天氣／地氣

			木氣	火氣	土氣	金氣	水氣
天氣	十干	陽干	甲	丙	戊	庚	壬
		陰干	乙	丁	己	辛	癸
地氣	十二支	陽支	寅	午	辰・戊	申	子
		陰支	卯	巳	丑・未	酉	亥

上記の表は、03 ページに記載したのとおなじです。

宿命（9）流入・発揮

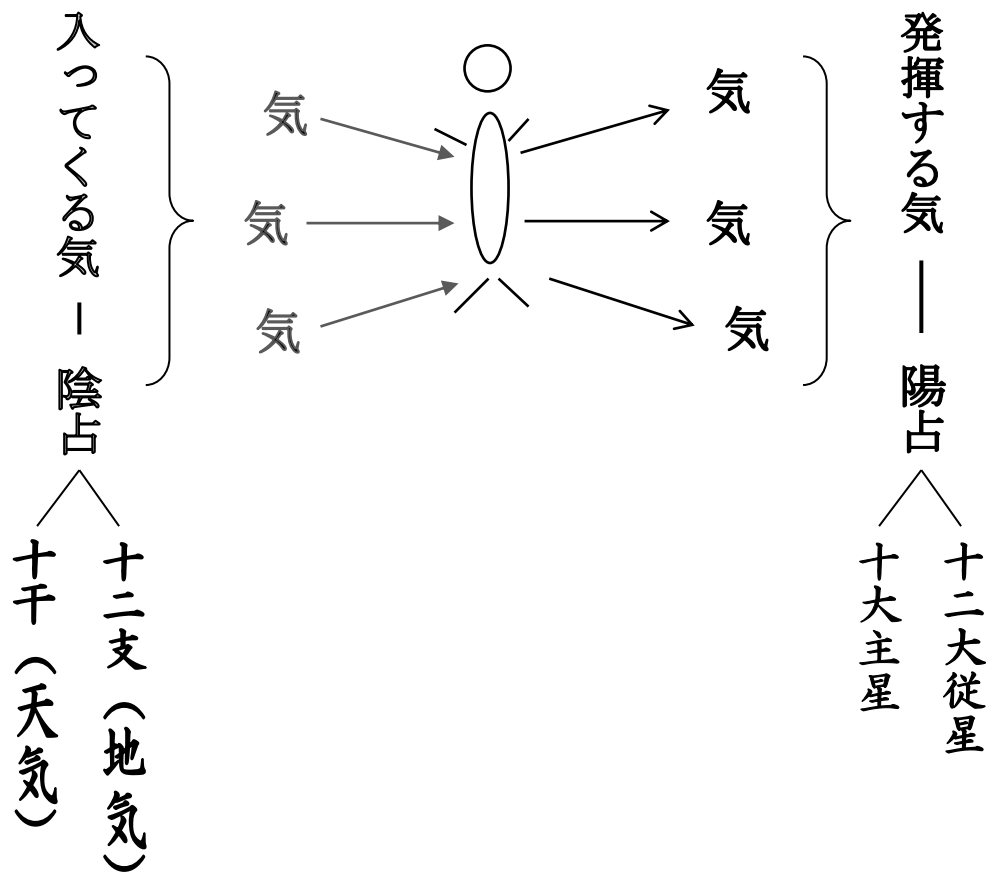


「十干」と（十二支）の【氣】が個々の身体に入って作用し、その【氣】を自分なりの「^{じんき}人氣」として発揮するわけです。

自分独自の「人氣」として、発揮・放出するときには、入って来た気とは「異なる気＝人氣」となって発揮します。

「^{じんき}人氣」という、「^{こと}異なる氣」となって発揮するときには…… 十大主星 十二大従星 という記号を用います。

宿命（10）流入・発揮



十大主星 と 十二大従星 については、後ほど勉強しますのでおわかりになります。

☞ 入る気は、陰占の天干にある「十干」の【気】と、地支にある（十二支）の【気】です。

☞ 天干にある「十干」の【気】を放出するときは、陽占の〔十大主星〕として発揮します。

☞ 地支にある（十二支）の【気】放出するときは、陽占の〔十二大従星〕として発揮します。

🔍 詳細目次を参照ください。下記に抜粋しました。

〔十大主星〕は⇒29回目【十大主星特性①】～③に掲載

〔十二大従星〕は⇒40回目【十二大従星力学】①～②に掲載

〔人体図〕は⇒34回目【人体図のだし方】に掲載

☞ **スティーヴン・ホーキング博士の「陰占」と「陽占」を**
18頁に記載しました。参考にしてください。

* 小泉純一郎・前総理大臣の宿命は「大三合会局」です。
『器が極めて大きい』と書きました。

* 小泉純一郎氏とスティーヴン・ホーキング博士は生年月日
がおなじですから、宿命はまったくおなじです。

「大三合会局」ですから、宇宙という無限ともいえる世界を
研究するには最も適している宿命です。

＊ スティーヴン・ホーキング 1942-1-8 [2018-3-14 死去 76 歳]

	辛	辛	辛		貫索星	天極星	1 庚子
子	酉	丑	巳	貫索星	鳳閣星	玉堂星	11 己亥
丑		⊙癸	⊙戊	天禄星	貫索星	天印星	21 戊戌
		辛	庚				31 丁酉
	⊙辛	己	丙				41 丙申
							51 乙未
							61 甲午
							71 癸巳

日干「辛」から年干「辛」をみると、十大主星は第四命星のかんさくせい貫索星

日干「辛」から月干「辛」をみると、十大主星は第二命星の貫索星

日干「辛」から年支（巳）の初元⊙戊をみると第三命星のぎょくどうせい玉堂星

月干「辛」から月支（丑）の初元⊙癸みると主星のほうかくほし鳳閣星

日干「辛」から日支（酉）の本元⊙辛をみると第一命星の貫索星

日干「辛」から、年支（巳）をみると十二大従星のてんきょくせい天極星

日干「辛」から、月支（丑）をみると十二大従星のてんいんせい天印星

日干「辛」から、日支（酉）をみると十二大従星のてんろくせい天禄星

☞ 2024年(令和6)は「甲辰(こうぼくのたつど)」の年としです。
その年は「甲辰こうたつ」という【気】が宇宙空間を流動し、
地球を取り巻いている年です。

「甲辰こうぼくのたつど」の【気】が人間に流入してきます。
受講生の皆様も、私も「甲辰」の影響を受けます。
身体に入ってきた「甲辰の気」を自分なりの「人気」
として放出するときは、人それぞれ発揮の仕方は異な
ります。

〔たとえば〕2024年(令和6)「甲辰の気」が入ってきた
ときに、仕事を頑張ろうという「人気」の姿で発揮す
る人もおられるでしょう。

あるいは、「甲辰の気」に取り巻かれたことで、結婚し
たくなりました。というふうに発揮する人もいるでし
ょう。

「甲辰の気」が入ってきて、病気になってしまった。
そういう発揮の仕方もあるわけです。

その人物にとって、「甲辰の気」は有り難いのか……
有り難くないのか……その事象は個々の宿命で異なり
ますが、その人物の陰占・陽占を観ればわかります。

☞ 【気の世界】を2つに分けて、理解しやすいようにあらわしたのが、「陰占」と「陽占」です。

【流入論・発揮論】をもちいて、「陰占」と「陽占」の違いと仕組みを説明しました。

算命学は【気の世界】の勉強といえます。

☞ すべてのあらゆる【気】が宇宙から放射され、自然界を流動していますから、地球上で暮している人間は、イヤでもその影響を受けてしまうのです。

そこには自分の意思とか、感情の^{ゼロ}入る余地は0です。

1ミクロン（1ミリメートルの1000分の1）もないのです。

影響を受けるしか仕方がないのです。

参考：自然界（天地万物が存在する範囲）

参考：宇宙空間（宇宙のひろがり。天体と天体のあいだの空間）

参考：天体（宇宙に存在する物体の総称。銀河・恒星・惑星・星雲など）

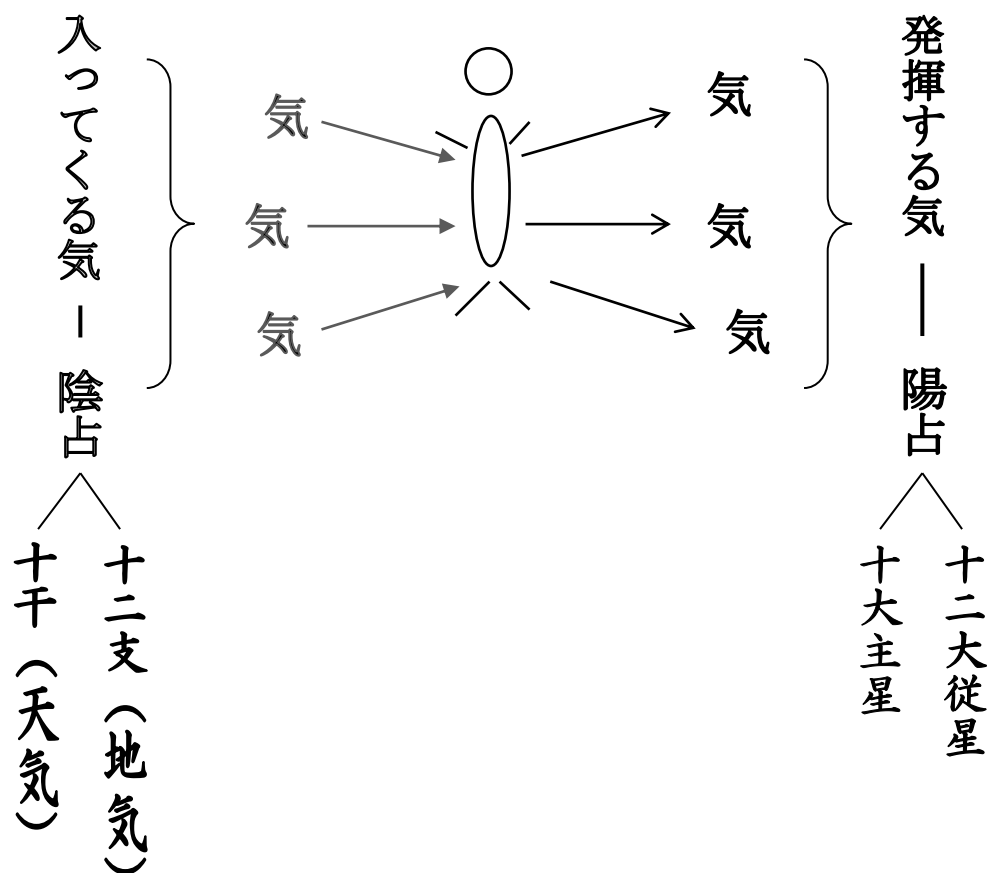
参考：太陽系（太陽を中心に運行する天体の集団とそれを含む空間） ➡

地球・木星・火星・水星・土星・金星・天王星・海王星の8惑星ほか。

参考：恒星（天球上で相互の位置をほとんど変えず。太陽とおなじく自ら発光する天体。

2023 年は「癸卯の氣」貴方の顔・腕を撫^なでています。
どこへ行っても漂っていますから、それを避けること
はできません。

宿命（10）流入・発揮



今日のお天気が雨だとしたら、イヤでも雨の1日を過
ごさなければなりません。
そこに自分の意思や感情が入る余地は一切ないのです。

☞ 「陰占」は、そのときの“運勢”を意味します。

陰占の宿命は「年干支・月干支・日干支」です。

ごちゅうほう
五柱法は陰占の宿命「三柱」に、^{さんちゅう}「大運」と「年運」
という「二柱」^{にちゅう}を加えて、運勢を観る技法です。

「大運」と「年運」は替わりますから、宿命ではない
のです。鑑定は五柱法をつかうことが多いです。

☛ 雨が降っていて、交通事故を起こしてしまったとか、
旅行に行くのに、^{ぬかるみ}泥濘で滑って転んで、救急車で病院
に運ばれて、飛行機に搭乗できなかった。

—— その飛行機が墜落した ……

搭乗日からの保険に入っていたので、治療費は保険で
まかなえた。骨折したけど、命は助かった。

その人物に与えられた“運勢”と考えています。

『運がよかった』と表現することが多いのですが……
算命学に偶然はないのです。

すべての事象は必然と考えています。

五柱法は「陰占」の世界です。

主に『運勢判断』をするときにつかいます。

その「陰占^{いんせん}」に対して、『宇宙を流動している気』が自分に入ってきて、発揮するのは「陽占^{ようせん}」になります。自分なりに発揮するには〔その人物の性格〕が「人気^{じんき}」に現れると考えています。

ゆえに「陽占」は主として『性格判断』につかいます。

陰占 — 運勢判断
陽占 — 性格判断

「陰占」「陽占」の一番主要^{しゅよう}な違いはなにかとえば、「陰占は運勢判断」「陽占は性格判断」と思っておいてください。

〔たとえば〕結婚のご相談で……「この人と結婚したら、私の将来はどうなるのでしょうか？」と訊かれたとすれば、もちろん性格的な部分も入りますけど、主として陰占です。つまり“運勢”を観ます。

ラブラブの関係がどこまでも、続いてくれますか？

〔見たところ好ましい〕〔見たところ好ましくない〕とか、〔好き〕とか、〔嫌い〕とか、〔一緒にいて楽しい〕とか、いろいろありますけど、その人物の〔外見〕や〔見た目〕などは、服装・持ち物、会話とかで……ある程度は観察できるわけです。

これは「陽占の世界」です。

⇒ 「この人と結婚したら、将来はどうなるの……？」

このご質問は「この人と結婚して、将来、幸せになるのでしょうか？」ということですよ。

お客様は、結婚生活を気にかけて心配なわけです。

これは運勢を観ますから「陰占」です。

⇒ 結婚に関しては、^{がいけん}外見とかも当然あります。

〔たとえば〕「お付き合いして、好みがお互いにマッチしました。相手の人はお金持ちだし……だから結婚したいのです」

お金もちだし……現実的でとても重要な部分ですけど、それだけで長い結婚生活に起こりうる山や谷を乗り越

えて行けると思っているのでしょうか。

相手がお金持ちだと……むしろ、いろいろな不安材料が浮かんでできますが、お金持ちだしという軽い気持ちで大丈夫なのでしょうか？

皆様はいかがが想われますか？

鑑定側は、お客様が話す内容をしっかりと受け止める必要があります。

算命学は【気の世界】です。

その流れを現しているのが「陰占」と「陽占」です。

鑑定側は……結婚して新しい人生を歩もうとする人物の「陰占」「陽占」をだします。

それを観ることで、性格・人生の目的、二人の相性、運勢のうごき、お客様のご要望に応じて、さまざまに読むことができます。

「この人と結婚したら運勢はどうか？」⇒ 陰占です。

主として……陰占をみます。

「この人と仲良く暮せるかどうか？」⇒ 陽占です。

主として……陽占をみます。

このように「陰占」と「陽占」は、観る世界が基本的に違いますから、占いの結果において、陰占は自分にとってよかったけど、陽占はよくなかった。

あるいは、陰占は自分に好ましくなかったけど……、陽占はまあまあとか、さまざまな答えがでてきます。

☞ 結婚に関することは、同伴して訊くよりも、お一人で相談に行くことをお勧めします。

鑑定側は相談に来た人物に焦点を当てるからです。

☞ 仕事を占うにしても……。

〔たとえば〕「今年、就職しようとおもっていますが、どうなるでしょう？」と質問されたときに——まず、仕事の内容がお客様の性格に合っているのかどうかは大切な焦点です。

つまり、その仕事に向く資質がその人にあるのかどうかは「陽占」で観ます。

それとは別に、今年、就職することが運勢的によい年^{とし}なのかどうかについては「陰占」で観ます。

「この仕事はお金になるということですが、お客様の固有の性格に向いているとはいえないのです。

お金を必要であれば努力して従事して、お金のことが解決したら^{ふんぎり}踏切をつけて、よい時期を選んで、ご自分に合う仕事をするとういのですね。

それはどういう仕事ですかと訊かれたときは「陽占」を観ます。よい時期を観るには「陰占」です。

参考：踏切（決断すること）

〔たとえば〕生活があるから仕方なくやっても……、物事に一生懸命に取り組む性質が^{こう}功を^{そう}奏して、出世していくこともあります。

参考：功を奏して（事の結果がなりゆきで都合よくゆくこと）

どのような事象であっても、「陰占」「陽占」の両方を観て、総括して占いの答えを出すわけです。

参考・総括〔別々のものをまとめ合わせる〕

【初年】 27回目【流入論・発揮論】 終わります

つぎの授業 ⇒ 【初年】 28回目【十大主星特性】